

1/20 SAT ふれあい人権発表会



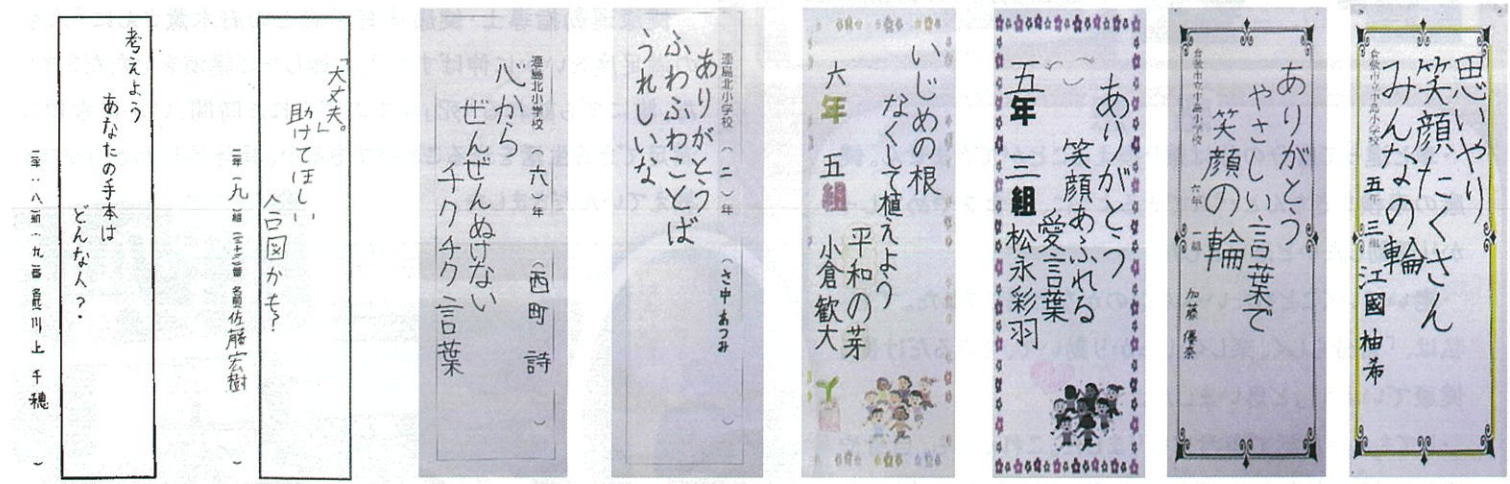
児童生徒が人権に係る作文を朗読したりポスターや標語を披露したりしました。また、人権学習のイメージキャラクターを作成した倉敷第一中の美術部員や人権に関するよりよい取組を行った倉敷第一中の生徒会と家庭部の代表生徒も含めて、出席した17名の児童生徒に会長から感謝状を贈りました。

その後、秋のホロコースト記念館への研修視察に参加した推進委員から、見たり聞いたりして感じたことを発表していただきました。推進委員だけでなく、中学生も数名参加し、世代を超えて人権について考えることができました。

令和5年度人権ポスター・標語・作文



中島小 6年	西澤 優和さん	「誹謗中傷をなくすために」
西阿知小 3年	児島 陽向さん	「お友だちとなかよくする」
連島北小 4年	横山 明澄さん	「なぜ男女差別がおきるのか」
倉敷第一中 1年	十川 紗楽さん	「はだの色は十人十色」



倉敷第一中 2年 倉敷第一中 2年 連島北小 6年 連島北小 2年 西阿知小 6年 西阿知小 5年 中島小 6年 中島小 5年
川上 千穂さん 佐藤 宏樹さん 西町 詩さん 佐中 敦美さん 小倉 歓大さん 松永 彩羽さん 加藤 優奈さん 江國 柚希さん

広報紙「あい愛」は、町内会の皆さまのご協力で倉敷第一中学校区全戸に配付しています。

47号 あい愛

発行日 令和6年2月
発行 倉敷第一中学校区人権学習推進委員会
事務局 倉敷市西阿知公民館
TEL/FAX 086-465-0836

倉敷第一中学校の取組



11月11日(土)、西阿知公民館の文化展において、倉敷第一中学校の家庭部生徒が、レモネードスタンドを開いて小児がんの子どもを支援する寄付活動を行いました。仁科教育長をはじめ、大勢の方々のご協力をいただきました。ありがとうございました。



倉敷第一中学校の生徒会が、「届けよう服のチカラ」プロジェクトを通じて難民の方々に子ども服を贈るために、9月20日から11月20日の間、西阿知公民館に回収ボックスを設置しました。次々と地域の皆さま方のご協力をいただき、子ども服が2,364着集まりました。写真は、生徒会の生徒がこの活動について仁科教育長に説明しているところです。

10/14(土) 研修視察

ホロコースト記念館・福山城

福山市のホロコースト記念館で、ユダヤ人に対する差別と迫害の長い歴史を学びました。特に、アドルフ・ヒトラーが選挙によって政権についたドイツにおける、人類史上最悪といえるユダヤ人への差別や迫害には、言葉もありませんでした。

また、福山城博物館では、関ヶ原の戦いの後に築かれた福山城が、260年もの間、戦のない徳川時代の創成期に担っていた役割を学んだり、黒船が来航してから開国に至るまでの激動の幕末の様子を知ったりすることができました。

～感想～

- ユダヤ人に対する無差別の差別、ユダヤ人ということだけでの虐殺、自分がユダヤ人の立場になったら、理不尽でたまらないことだと思います。
- アンネの父オットーさんの思いをととても感じ、それを継承している方々の思いが、もっともっと世の中に伝わったと思いました。



10がつ 28 (土)

中島小学校

「イライラしない子育てのヒント
～感情のコントロール アンガーマネジメント～」
Y'sオフィス 小山内 優里子 氏

講演の前半は、5・6年生児童と保護者が、「人・自分を傷つけない」「ものを壊さない」という「怒るルール」や、深呼吸して切り替えるという対応策などのお話でした。

後半は、保護者への講演でした。「強度・頻度・持続性・攻撃性」を指標にして近くの席の人と「自分の怒りの傾向」を話し合いました。また、「～であるべき」という理想と現実のギャップが怒りの原因となるので、理想について理由を伝える「語彙力」を磨くことの重要性もわかりました。さらに、「怒り」を感じたら、まずは6秒間待つと、衝動的・反射的に怒らずに済むという「怒りとの付き合い方」も教わりました。

参会者からは、「怒る自分」を受け入れて心が軽くなった、「～べき」を押し付けないように、「6秒ガマン!!」、怒りをためずガス抜きも必要などの感想が寄せられ、人間関係作りや子育てに生かせる有意義な講演会となりました。

10がつ 28 (土)

西阿知小学校

「ゲーム・動画・ネット社会のこわ～い話
～便利で楽しい画面の中の落とし穴2023～」
就実大学人文科学部 非常勤講師 筒井 愛知 氏

デジタルネイティブの時代に生まれ育った保護者や6年生児童に、ゲームやSNSに潜む危険や、その対応策を講演していただきました。大切なこととして、2点を挙げられていました。

①ゲームの中でポイントやレベルが向上しても、実生活でのレベルアップはしていない。実生活の中での修業が必要である。(体を動かす・散歩する・月を見る・大会やイベントに参加するなど)

②SNSでのやり取りでは、想像力が働きにくい。文章だけのコミュニケーションは、細かなニュアンスが伝わりにくくなり、人間関係の構築を妨げてしまう。直接会ってコミュニケーションをとってほしい。

6年生児童のみならず、多くの学年、多くの保護者に聞いていただきたい内容の講演でした。

12がつ 11 (月)

倉敷第一中学校

「夢をもち続ける そしてあきらめないこと
～パラアーチェリーとの出会い～」
パラアーチェリー日本代表 大江 佑弥 氏

全体を通して、実演や映像、写真、実際のメダルや器具などのものから、本物の迫力や重みを実感できる講演でした。

グラウンドでの実演(50m先の風船をアーチェリーで割る)では、生徒たちから自然と感嘆の声が湧き上がっていました。その後の講演でも、大江選手ご自身の生い立ちや思いをしっかりと聞くことができ、パラスポーツの魅力やルール、そこで得た知見など、含蓄豊かで、なおかつ中学生にもわかりやすいお話をしてくださったので、生徒たちも感じる、考えることが多くあったようです。子どもたちの表情や感想からは、障がいやパラスポーツについて理解を深め、自身の生き方についても考えるきっかけとなったことがうかがえました。人権講演会としてたいへん意義深いものであったと感じます。

11/19 SUN

片島地区で クイズウォークラリー



12/10 SUN

連島北学区 ふれあい交流会



12/16 SAT



1/27 SAT



1/21 SUN

福田中学校区 人権学習推進委員との 交流会



1/13 SAT

第2回 西阿知公民館 人権教育講演会 「人生の満足度をいかに伸ばすか？」 ～最後まで健康であるために～



健康運動指導士・健康体育学修士 府木 薫 氏

健康運動指導士・健康体育学修士の府木薫さんに「人生の満足度をいかに伸ばすか？」と題したご講演をいただきました。誰にでも訪れる「死」までの限られた時間、いかに幸福に満足できる生活を送ることができるか。具体的にわかりやすく教えていただきました。

感想

- ・車と違って自分の体は乗り換えることができません。健康の車検をきちんとパスできるように、多食をやめてしっかり運動したいと思いました。
- ・老いていくこともたいへんなのかなと感じました。でも、私は、「自分らしく、楽しく、しっかり動いて、できるだけ長く健康でいよう!」と思いました。
- ・とてもよいお話で参考になりました。これからも、自身や家族の健康を考えて、運動や食事などに気をつけたいと思いました。余命が思いのほか長いので、これから一層健康寿命を延ばしたいと思いました。

